【今日の説教から】
イエス様はこう語られました。
「あなたがたのために与えるわたしのからだ」、「あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約」、「天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう」(ヨハネ６章)。
罪と死から解き放たれ、私たちを神のものとするイエス様の愛と命の新しいきずなを得て、神の家族のお交わりを頂くのですが、弟子たちの間には空虚な議論がありました。それは誰がより有力で、誰だ群れを支配するのかという主導権争いでした。それはサル山で武闘によってボス猿を決めるようなレベルの話でした。
イエス様は「かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者のようになるべきである。わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている」と語られました。
給仕する、待つ、じっと見て、心配して、世話をする。そして仕える。神の子が私たちにそのようにして下さるのです。
外見は良くても中は空っぽであれば、ふるいにかけられた時、吹き飛んでしまいます。
しかし所詮私たちはそのような存在です。しかしそこにイエス様の祈りがあるのです。「しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」
この主への恩と感謝から互いの交わりが生まれるのです。

皆様、おはようございます。

先週の箇所にて、イエス様はパンとぶどう酒で聖餐をなさり、こう語られました。
「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」。
食事ののち、杯も同じ様にして言われた、「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。
またイエス様は、ヨハネ６章の中でこう語っておられます。
「天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう」
「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。」

罪と死から解き放たれ、私たちを神のものとするイエス様の愛と命の新しいきずなを得て、神の家族のお交わりを頂くのですが、弟子たちの間には空虚な議論がありました。それは誰がより有力で、誰が群れを支配するのかという主導権争いでした。それはサル山で武闘によってボス猿を決めるようなレベルの話でした。

「論語読みの論語知らず」という言葉がありますが、いくら偉大な先生のそば近くに長くいようとも、その先生の深い思想を本当に理解しているのか、そして深い理解があるのならばその人の人生をもってその生き方に共鳴して生きるのかということが聞き手に課されています。

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。」このことを繰り返し繰り返し心に刻むために、私たちは、私たちのために十字架に死なれたお方を繰り返し記念し、この方の死の犠牲による救いを心に刻みます。
今日開かれております聖書の言葉、イエス様のお言葉から、私たちはイエス様のお思いを心に刻みたいと願います。

22:24 それから、自分たちの中でだれがいちばん偉いだろうかと言って、争論が彼らの間に、起った。
22:25 そこでイエスが言われた、「異邦の王たちはその民の上に君臨し、また、権力をふるっている者たちは恩人と呼ばれる。

誰が一番偉いか。誰が上に立ち、誰が支配権を持つのか。誰の意見が強く、支配力をもって、ほかの人を従わせるより強い声となるのか。こういうことは、組織運営においては基本的な考え方なのかもしれません。「船頭多くして船山に登る」(Too many cooks spoil the broth)ということにならないようにとの考えでしょう。

人はしばしば分かり合えないものです。そして人には優劣があり、組織は意思を決定していかなければならない。だからこそ、リーダーシップの下、意思決定が円滑になされるためのルール作りが必要であり、それが力関係における秩序立てであり、序列づくりであると理解されるでしょう。

皮肉なことに、イエス様がご自分の死を予告されるとき、弟子たちはあまり多くのことを理解していなかったにもかかわらず、主の贖いの死が救いに至る希望と勝利に満ちた主の犠牲的な愛も死も復活にも疎かったにもかかわらず、その死によるリーダー不在となった後の力関係の将来については敏感に打算的に予測していました。

そこで彼らがとった行動は、誰が次期リーダーにふさわしいかの議論でした。
しかし彼らのその様は、異邦人による、強力な力を背景とした上からの力ずくの支配を思わせる権力闘争でしかありませんでした。そこでイエス様はご自身のリーダーシップについてここで語られたのです。

22:26 しかし、あなたがたは、そうであってはならない。かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者のようになるべきである。

「しかし、あなたがたは、そうであってはならない」
これが私たち教会への主の言葉、クリスチャンへの主の言葉です。

偉いということはどういうことか。偉い人とは、人を一列に並ばせてお辞儀をさせる人ではない。偉い人とは、偉い人なのに若いもののように平身低頭経験がないが故に地を這いつくばって何でも人が嫌がる仕事でもして一人前になりたいと努力を重ねる、重んじられることもなく、意見を求められることもなく、お辞儀をして回っても心に留められることもなくいつも下働きをさせられる若いもののようであれとの教えです。
偉くなるためにはそのような苦労を経て、そして苦労して、苦労して、ようやく経験を積んで確かな仕事ができるようになり、地位を得て信頼を得て羽ばたいていくわけですから、それは尊敬に値するのです。その重鎮がしかるべき仕事をせずに、経験無き者が仕切っては失敗するばかりでしょうから、偉い人がそれなりの地位に就くことは非合理なことではありません。しかしここでイエス様が言っておられるのは、その中でも本当に偉い人とはどういう人かということです。そして、それでこそ教会だ、クリスチャンだという大切な価値観についてここで語っておられるのです。

22:26 しかし、あなたがたは、そうであってはならない。かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者のようになるべきである。

マタイ 20:25 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。
20:26 あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、
20:27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。
20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

最も偉い人、それはイエス様です。どんなに偉いかといえば、イエス様は神様でいらっしゃ

るほどに偉いお方です。そしてどんなに若くへりくだり、這いつくばられたかといえば、弟子たちに仕え、足の裏を洗い、背中に魚の骨のとげのついた鞭で打たれ背中が裂けるほどに忍耐され、十字架について手と足とをくぎに打たれ、いばらの冠を頭に刺し通され、贖いの死を遂げ、よみに降られたほどにへりくだられました。神でありながら実に人となられ、それだけでなく奴隷となられ、重罪人の在り方にまでへりくだられたこのお方は、若者のように低くなられたどころの騒ぎではないことが良く分かります。

指導する人は仕える者のようになるべきである。

これもまたしかりです。指導する人は絶対的に上に、優位に立ち、鬼軍曹が、新兵にどのような地獄のトレーニングを貸すか、考えるだけで恐ろしいですが、そういう、虫けらども、俺の言うことを黙って聞けと怒鳴る人のような権威があるのに、仕える者となるというところに私たちへ語られるイエス様の知恵があります。

仕える者とは、のちに給仕という名前も出てまいりますが、同じ意味で語られる言葉です。優秀な給仕とはどんな人でしょうか。忍耐強く待ち、お客さんの少しの動きも見逃さず、何が御用ですかと駆け寄る人のことではないでしょうか。ですから給仕はウエイター(waiter)とも呼ばれます。ギリシャ語の意味でも待つという意味が記されています。その仕える人のために待つ。準備を整えていつでも即座に仕えることができるように待つ。これが仕える人です。イエス様が、神様がこのような態度で私たちを待ち、見ておられ、心配をしてお世話をして下さるということは、私たちにとって何という身に余る光栄なのでしょうか。しかし私たちはこの神様の愛に甘えるばかりでいるのではなくて、私たちもまたお手本を見て育って、これを実行する者、模範通りに生きる者でありたいのです。

26　しかし、あなたがたは、そうであってはならない。かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者のようになるべきである。
27 食卓につく人と給仕する者と、どちらが偉いのか。食卓につく人の方ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。

私たちの師がこのようになさるのですから、私たちもまた師に倣うべきです。師に従って、仕え、犠牲を捧げ、他者を愛し進むべきです。
ヨハネ 13:13 あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。
13:14 しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。
13:15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示

したのだ。
13:16 よくよくあなたがたに言っておく。僕はその主人にまさるものではなく、つかわされた者はつかわした者にまさるものではない。
13:17 もしこれらのことがわかっていて、それを行うなら、あなたがたはさいわいである。

28 あなたがたは、わたしの試錬のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たちである。
22:29 それで、わたしの父が国の支配をわたしにゆだねてくださったように、わたしもそれをあなたがたにゆだね、
22:30 わたしの国で食卓について飲み食いをさせ、また位に座してイスラエルの十二の部族をさばかせるであろう。
22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。
22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

世の中の風潮、悪魔の風潮、吹きすさぶ嵐の中、よく私の試練の時、それに伴って進んでくれた、確かにあなたたちはやがて王国の支配を手伝うようになるだろう。しかし今、気を引き締めて、この一本の道から逸れないように気をつけなさい。私の道を進みなさい、敵である悪魔があなた方をもみ殻をふるいにかけて選別するようにしてあなた方を不適格者として裁き滅ぼそうとして願って聞き入れられた。危機が迫っている。
しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

あなた方は信仰を捨てるようにして命からがら逃げ、惨憺たるありさまとなり、もみ殻のように失格者のように選別されるだろう。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。
しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。
しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

しかし、わたしもあなた方のために願い、懇願し、祈った。

あなたの信仰がなくならないように。
あなたの信仰がなくならないように。
あなたの信仰がなくならないように。

あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

このイエス様の熱い熱い祈りを頂いて、どうして私たちが信仰から逸れることがあるでしょうか。どうして立ち直らないことがあるでしょうか。
信仰に居続けることができるのも、立ち直れるのも、主イエス様の熱い思いと祈りのおかげです。だから私たちは助け合えるのです。力づけ合うことができるのです。
教会はそういうところです。私たちはそういう群れ、そういう一人一人です。ですから私たちは自分を守り、群れを守り、教会を守っていくことを願う必要があります。教会をイエス様の御心によってたて上げていくのです。そのために捧げていくのです。

22:33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。
22:34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言っておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

しかしそんな熱い思いがあっても、私たちは腰砕けになってしまうことがあるでしょう。それでもそれでも、神様のご愛と恵みは絶えることがないのです。ですから私たちは信仰にとどまり続け、立ち直り続け、力づけあうことができるのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。あなたは給仕する者、じっと待ち、見守り、心配して世話をしてくださるお方ですから、そのご愛に心より御礼を申し上げます。人は常にサル山の猿のように虚勢を張って誰が上だ、誰が下だと優劣を競い合いますが、それはふるいにかけられればもみ殻のように空っぽで風に吹き飛ばされるに等しいものです。イエス様はそんな愚かな者のために贖いをなし、また信仰がなくならないようにと祈ってくださり、他者のために仕え尽くしてくださいます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン